

多様な人とかかわる中で、自他のよさを認め合い、協調して学び、新たな自分を発見できる子どもの育成

学校通信 ひがしやま 第74号

発行日 令和7年1月27日(月)
発行者 別府市立東山幼稚園
別府市立東山小学校
別府市立東山中学校
校(園)長 谷川 芳明

○災害の記憶と継承について。

本校のどんと焼き(1/17)の日は、阪神淡路大震災発生(1995年1月17日火曜日 5時46分52秒)から30年目を迎える日でした。校長あいさつでも、その件に触れました。午後から小学部4年生から6年生が防災教室「ユレルンダー」体験学習を実施。また図書室前には、石橋さんが防災関連書籍を配置してくれました。通りかかった子どもたちは熱心にみていて、本は現在貸出中とのこと。あらゆる機会を捉え、災害の記憶の継承に取り組めます。



★★

○東山PTA放課後クラブの開催について(1/22)

今回は、大分県立爽風館高等学校の石井圭一郎校長をお招きして、特色ある学校の取組について、学びを深めました。

ご自身の経験も交え、「子どもは一人ずつ違うので、親は待つことも大事。」「非認知能力・認知能力について。」

学校説明では、①9月入学があること②増加する通信制は、1,200人を超える生徒が在籍③登校は年間15日程度④校則がない⑤留年がない⑥卒業までの期間を自分で決める(3年～6年)⑦費用の安さ等。会場からの質問も積極的で、終了後も石井校長に質問する方がいました。



集約したアンケートには、「他の高校に比べて、お金がかからない」「定員80人の教室を上回る生徒が、90分授業に集中ができ、目的意識を持って、通学している。」「学ぶ内容も時間も自分で決める。責任は自分自身。」「毎日学校にいらなくていいんだ。」

なお、「学校案内」の残部が校長室にあります。興味がある方、お渡しします。